

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月13日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 ユニデンホールディングス株式会社

【英訳名】 UNIDEN HOLDINGS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 早寄 英二

【本店の所在の場所】 東京都中央区八丁堀2丁目12番7号

【電話番号】 03(5543)2812

【事務連絡者氏名】 取締役 金城 一樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区八丁堀2丁目12番7号

【電話番号】 03(5543)2812

【事務連絡者氏名】 取締役 金城 一樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第53期 第3四半期 連結累計期間		第54期 第3四半期 連結累計期間		第53期	
		自 至	平成29年4月1日 平成29年12月31日	自 至	平成30年4月1日 平成30年12月31日	自 至	平成29年4月1日 平成30年3月31日
売上高	(百万円)		11,928		16,540		15,141
経常利益	(百万円)		1,799		2,158		1,970
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)		1,522		1,475		1,768
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		1,709		1,861		1,518
純資産額	(百万円)		29,061		30,436		28,869
総資産額	(百万円)		36,880		37,221		36,969
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)		258.89		250.82		300.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		-		-		-
自己資本比率	(%)		78.0		80.1		77.3

回次		第53期 第3四半期 連結会計期間		第54期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成29年10月1日 平成29年12月31日	自 至	平成30年10月1日 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		81.76		80.80

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
5. 平成30年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第53期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

（1）経営成績の分析

当社グループは、売上高および営業利益を重要な経営指標と位置付けており、エレクトロニクス事業においては、ドライブレコーダー、レーダーディテクター、車載用モニターの新機種などの新規製品を積極的に販売展開しております。また、前年度に引き続き、生産コストや販売費及び一般管理費の見直しを継続的に実施しております。不動産事業においては、不動産の売買を積極的に展開していく方針です。当社グループ全体では、前年度と比較して売上高および営業利益ともに増加しております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高16,540百万円（前年同四半期比38.7%増）、営業利益2,105百万円（前年同四半期比21.1%増）、経常利益2,158百万円（前年同四半期比20.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,475百万円（前年同四半期比3.1%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

《エレクトロニクス事業》

当事業では、主に、無線通信・応用機器、デジタル家電機器、電話関連機器の製造販売を行ってまいりました。当事業の売上高は9,982百万円（前年同四半期比2.4%増）となりました。製品区分別の内訳は主に次のとおりであります。

〔無線通信・応用機器〕

当区分では、北米市場においてレーダーディテクターの販売が好調に推移し、大手量販店のベストバイ、オンラインリテーラーのピーチトレーディングカンパニー等への売上が増加する要因となりました。またオセアニア市場ではワイアレスセキュリティカメラの販売が引き続き好調に推移しております。一方前期に東南アジア市場にてスポットとして売上のありました海上無線機販売は今期見込めませんでした。当区分全体では売上台数96万台（前年同四半期比5.7%増）、売上高7,684百万円（同14.3%増）となりました。

〔デジタル家電機器〕

当区分では、国内市場での車載用チューナーの需要減により、販売台数、販売金額がそれぞれ減少しております。当区分全体では売上台数3.4万台（前年同四半期比33.9%減）、売上高810百万円（同19.7%減）となりました。

〔電話関連機器〕

当区分では、オセアニア市場において、マーケットシェアは首位を維持しているものの、全体的に市場規模の縮小傾向が続き、主力製品であるコードレス電話の売上が減少しております。当区分全体では売上台数25.4万台（前年同四半期比38.3%減）、売上高は1,172百万円（同33.3%減）となりました。

《不動産事業》

当事業では、前年度までに賃貸事業の収益を安定的に計上する体制を整え、当年度においては販売事業を積極的に押し進めました。その結果、当事業全体では、売上高6,604百万円（前年同四半期比196.4%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は20,760百万円(前期末比336百万円増)となりました。これは、主として現金及び預金が2,142百万円、受取手形及び売掛金が630百万円、原材料及び貯蔵品が242百万円、商品及び製品が209百万円、それぞれ増加し、販売用不動産が2,884百万円、その他流動資産が58百万円、それぞれ減少したこと等によるものです。

固定資産は16,460百万円(前期末比84百万円減)となりました。これは、有形固定資産が135百万円、無形固定資産が29百万円、それぞれ減少し、投資その他の資産が80百万円増加したことによるものです。

この結果、資産合計は37,221百万円(前期末比252百万円増)となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は4,131百万円(前期末比375百万円増)となりました。これは、主として未払法人税等が348百万円、支払手形及び買掛金が211百万円、役員賞与引当金が60百万円、それぞれ増加し、その他流動負債が156百万円、1年内返済予定の長期借入金が79百万円、未払費用が30百万円、それぞれ減少したこと等によるものです。

固定負債は2,654百万円(前期末比1,689百万円減)となりました。

この結果、負債合計は6,785百万円(前期末比1,314百万円減)となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は30,436百万円(前期末比1,566百万円増)となりました。これは、主として利益剰余金が1,475百万円、非支配株主持分が311百万円、為替換算調整勘定が75百万円、それぞれ増加し、資本剰余金が294百万円減少したこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は330百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約の決定又は締結等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,900,000
計	16,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,313,964	6,313,964	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、100株であり ます。
計	6,313,964	6,313,964		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年10月1日	56,825	6,313		18,000		161

(注) 株式併合(10:1)によるものであります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成30年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,323,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 58,318,000	58,318	同上
単元未満株式	普通株式 498,649		同上
発行済株式総数	63,139,649		
総株主の議決権		58,318	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式761株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ユニデンホールディングス 株式会社	東京都中央区八丁堀 2丁目12番7号	4,323,000		4,323,000	6.85
計		4,323,000		4,323,000	6.85

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,654	10,796
受取手形及び売掛金	3,194	3,825
商品及び製品	792	1,002
販売用不動産	6,628	3,743
仕掛品	144	179
原材料及び貯蔵品	657	899
その他	380	321
貸倒引当金	29	8
流動資産合計	20,423	20,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,238	2,178
機械装置及び運搬具（純額）	127	114
工具、器具及び備品（純額）	315	312
土地	12,180	12,118
建設仮勘定	95	97
有形固定資産合計	14,957	14,821
無形固定資産	215	185
投資その他の資産		
投資有価証券	639	650
その他	856	926
貸倒引当金	123	123
投資その他の資産合計	1,372	1,453
固定資産合計	16,545	16,460
資産合計	36,969	37,221

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	787	999
短期借入金	521	545
1年内返済予定の長期借入金	188	108
未払費用	795	765
未払法人税等	522	871
賞与引当金	107	110
役員賞与引当金	17	77
製品保証引当金	23	18
その他	791	635
流動負債合計	3,755	4,131
固定負債		
長期借入金	3,891	2,249
その他	452	404
固定負債合計	4,343	2,654
負債合計	8,099	6,785
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,000	18,000
資本剰余金	28,851	28,557
利益剰余金	59	1,534
自己株式	7,335	7,336
株主資本合計	39,575	40,755
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	11,013	10,938
その他の包括利益累計額合計	11,013	10,938
非支配株主持分	308	619
純資産合計	28,869	30,436
負債純資産合計	36,969	37,221

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	11,928	16,540
売上原価	7,335	11,232
売上総利益	4,592	5,308
販売費及び一般管理費	2,853	3,202
営業利益	1,738	2,105
営業外収益		
受取利息	6	12
受取配当金	1	1
為替差益	61	90
デリバティブ評価益	0	-
持分法による投資利益	0	-
作業くず売却益	2	7
その他	5	8
営業外収益合計	79	119
営業外費用		
支払利息	15	15
寄付金	1	32
持分法による投資損失	-	11
その他	2	7
営業外費用合計	19	67
経常利益	1,799	2,158
特別利益		
固定資産売却益	57	43
特別利益合計	57	43
特別損失		
固定資産除売却損	13	-
特別損失合計	13	-
税金等調整前四半期純利益	1,842	2,202
法人税、住民税及び事業税	208	478
法人税等調整額	10	63
法人税等合計	218	415
四半期純利益	1,624	1,786
非支配株主に帰属する四半期純利益	101	311
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,522	1,475

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,624	1,786
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	71	52
持分法適用会社に対する持分相当額	13	22
その他の包括利益合計	85	75
四半期包括利益	1,709	1,861
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,608	1,550
非支配株主に係る四半期包括利益	101	311

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国会計基準を採用する米国の連結子会社を除く、海外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第9号(金融商品)およびIFRS第15号(顧客との契約から生じる収益)を適用しております。

当該会計基準の適用が当社の四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微です。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	259百万円	262百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	294	5.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日	資本剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	294	5.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日	資本剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	エレクトロ ニクス事業	不動産事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	9,700	2,227	11,928	11,928	-	11,928
セグメント間の内部 売上高又は振替高	51	-	51	51	51	-
計	9,752	2,227	11,980	11,980	51	11,928
セグメント利益	1,264	474	1,738	1,738	-	1,738

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	エレクトロ ニクス事業	不動産事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	9,936	6,604	16,540	16,540	-	16,540
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45	-	45	45	45	-
計	9,982	6,604	16,586	16,586	45	16,540
セグメント利益	1,052	1,053	2,105	2,105	-	2,105

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	258円89銭	250円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,522	1,475
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,522	1,475
普通株式の期中平均株式数(株)	5,882,520	5,881,621

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成30年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月13日

ユニデンホールディングス株式会社
取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	岩	田	亘	人	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	増	田	涼	恵	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユニデンホールディングス株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ユニデンホールディングス株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。